

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 6日現在

機関番号：32402

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：平成23年度～平成24年度

課題番号：23830067

研究課題名（和文） 組織における上司 - 部下間の情報伝達を促進・阻害する要因の探求

研究課題名（英文） Promotional and obstructive factor on vertical communication in organization

研究代表者

村上 善紀 (MURAKAMI YOSHIKI)

東京国際大学・商学部・講師

研究者番号：60614097

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、組織が高い経営成果を達成するために必要となる、組織内における上司-部下間の情報伝達を促進・阻害する要因を探求することである。本研究では、研究目的の達成のために、包括的な質問票調査を行い、①情報伝達の程度、②伝達される情報の内容、③情報伝達の促進・阻害要因、を中心にデータを収集した。分析結果からは、①情報伝達の程度は、伝達情報の内容に大きく依存すること、②促進・阻害要因としては、上司の態度や職場の雰囲気非常に重要であり、特に部下の学習・成長を促進するようなリーダーシップをとる上司に対して、部下からの情報伝達程度が高い、といった知見が得られた。

研究成果の概要（英文）：

In this research, I explored promotional and obstructive factor on vertical communication in organization that achieve high managerial result. I implemented exhaustive questionnaire survey which includes degree of communication, content of communication, and promotional and obstructive factor on communication. The result showed two important points. First, degree of communication between supervisor and subordinate highly depends on content of communication. Second, to promote communication, behavior of supervisor and atmosphere of workplace is important. Degree of communication from subordinate is high when supervisor's leadership style promotes subordinate's learning and growth.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経営学

キーワード：上司-部下 情報伝達 促進・阻害要因

1. 研究開始当初の背景

組織の構成員が業務を行う過程で得た情報が、正確かつ迅速に組織内の他者に伝わることは、組織の成長・存続にとって重要である。

特に、組織における所属階層が異なるために獲得できる情報が異なる、上司-部下間で適切な情報伝達が行われることの重要性は、これまで繰り返し指摘されてきた (Dutton et al., 1997; 沼上他, 2007)。

既存研究でも、上司-部下間の情報伝達程度と企業業績の間には正の関係が指摘されている (Floyd and Wooldridge, 1992; 1996; 1997; 2000)。

そのため次に必要なのは、上司-部下間の情報伝達程度に影響を与える要因を探求する研究である。その要因に関する既存研究は、例えば情報伝達の方向性と情報の種類という 2 軸でまとめることができるように思われる (村上, 2010)

ただし、これらの個々の研究には、①扱っている情報の種類を必ずしも明示せず、他の種類の情報との関連を考慮することなく検証が行われている、②情報伝達に影響する特定の要因のみに絞った研究が多く、複数の要因を比較検討したうえで、最も影響を与える要因は何か、という視点での検討はあまり行われていない、という問題があり、より包括的な検証が必要であると考えられてきた。

2. 研究の目的

前述したように既存研究においては、組織が経営成果を高めるうえで重要になる情報の種類は、組織の置かれた状況や、情報の受け手、出し手に応じて大きく異なることが想定されるものの、情報の種類の詳細に関する検討はほとんど行われていないように思われる。

そのため本研究は、①組織内の上司-部下間でやり取りされる情報の種類をなるべく詳しく分類しつつ、②それぞれの種類の情報伝達に影響を与える主たる要因を検証することを目的として行われた。

3. 研究の方法

本研究の中心に位置付けられるのは、日本企業の従業員を対象にした、上司-部下間の情報伝達に関する定量研究 (多変量解析) である。

上司-部下間の情報伝達を活性化させる要因には様々なものが指摘されているが (沼上他, 2007; Dutton et al, 1997; Waston and

Wooldridge, 2005)、本研究では特に上司のリーダーシップスタイルに着目し、様々リーダーシップスタイルと、情報伝達程度との関係を明らかにしようとしている。

上司のリーダーシップと、上司-部下間の情報伝達程度との関係を明らかにするには、それ以外の主たる説明変数 (組織構造変数、個人属性変数など) を同時に分析に組み込んだ統計モデルを作成し、検証することが最も適切であると考えられる (Singleton and Straits, 2009)。

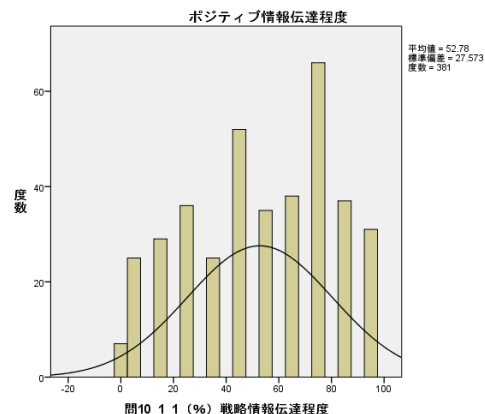
本研究では計 2 回の質問票調査を実行した。1 回目の質問票調査では、主に上司のリーダーシップスタイルやその他の構造的変数と、情報伝達の程度に関する分析が行われた。

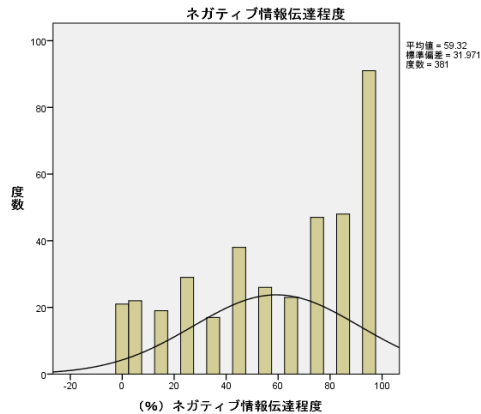
2 回目の質問票調査では、そもそも部下から上司に伝達される重要な情報を、部下側がどのように認識しているかという観点から、情報の種類を大まかに分類したうえで、部下が具体的にどのような情報を重要だと認識して上司に伝達しているかについて、情報の詳細を記述してもらう形で調査を行った。

4. 研究成果

質問票調査から得られた興味深い知見は以下のとおりである。質問票調査では、回答者に当たる部下に対して、上司に伝達する情報を、ポジティブな情報とネガティブな情報に分類し、それぞれどの程度伝達しているかということと、可能であればその情報の具体的な中身について尋ねている。

その結果分かったのは、同一の回答者が同一の上司に情報伝達をする場合でも、ポジティブな情報とネガティブな情報の伝達程度は大きく異なるということである。





上記の2つのグラフは、ポジティブ情報とネガティブ情報それぞれの伝達程度の度数分布表である。回答者は381名で、同一の回答者が両方に答えている。

これを見ると、ポジティブ情報の伝達程度は50%近辺と70%近辺に大きな山があるのに対して、ネガティブ情報は100%伝達するという回答が最も多くなっている。

このことから、同一の回答者であり、同一のリーダーシップスタイルを持つ上司に情報を伝達する場合であっても、情報の種類によって上司への伝達程度は大きく異なることが分かる。また既存研究や直感に反して、ネガティブな情報の方が、ポジティブな情報よりも上司に多く伝達されている。これは、ネガティブな情報は上司の不興を買う可能性があるため、部下は伝達を躊躇しがちであるとするこれまでの既存研究とは大きく異なる結果である。

ネガティブな情報こそ上司に伝達するという行動は、日本の企業組織の行動規範からするとそれほど違和感があるものではない。今後は、情報伝達の中身を詳細に分類した質問票を作成し、日本と海外の比較を行うことで、この差が地域特性によるものなのかどうかを検討することができると思われる。

また、統計分析の結果からは、上司のリーダーシップスタイル8項目のうち、特に部下の学習や成長を促すリーダーシップは、部下からの情報伝達を優位に促進することが明らかとなった。これは、ポジティブ情報の方が影響度が大きいものの、ポジティブ・ネガティブ両方の情報に共通した結果であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 善紀 (MURAKAMI YOSHIKI)

東京国際大学・商学部・講師

研究者番号：60614097

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：